



すぎなみ 教育報



No.192

平成21年3月10日

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

区公式ホームページ

<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 3312-2111 FAX 5307-0692

私たちのエコスクールをつくらう

「エコスクール」といえば、芝生化された校庭や屋上、壁面が緑で覆われた校舎が思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし、「杉並のエコスクール」の定義は、校舎や校庭など「施設づくり」への取組みだけにとどまるものではありません。子どもたちが地域の方々とともに緑や生き物に親しみ、思いやりの心が持てるような「環境教育」、日常生活のなかでの環境への負荷をできるだけ少なくしようという活動をすすめていくような「学校運営」、この3つを充実させていくことで、杉並区の考える本当のエコスクールは実現に近づいていきます。

施設づくり

この4月に、新校舎に移転する**荻窪小学校**。校庭・屋上・壁面緑化が施され、見た目にも瑞々しさにあふれていますが、外断熱や通風・自然換気、地中熱の利用などにより、できるだけ環境に負荷を与えない多くの工夫が凝らされた校舎です。そんな新校舎での生活を前に、好奇心旺盛な荻窪小学校の子どもたちは建築中の新校舎に入らせてもらい、建物の仕組みを現場監督さんに聞いたり、現校舎で日向と日陰の温度の違いや、建物の窓配置や方位による通風の違いなどを調べています。4月からは新校舎でも調査を行って、そこで生活する子どもたち自らが（施設としての）エコスクールを体感し、環境教育を実践します。



牛乳パックでつくった「風見魚」で現校舎の風の流れを知り、「風の道マップ」を作ります。

新校舎（3月竣工）ではどんな「風の道マップ」が作れるでしょうか？



芝生の屋上を裸足で元気に走る永福小学校の子どもたち。永福小は「屋上庭園」として既存の校舎屋上を緑地化するほか、熱帯魚水槽などへの太陽光・風力発電の利用、ミミズコンポストによる生ゴミの処理や、学校支援本部と連携したビオトープの管理など、総合的なエコスクールへの取組みにも子どもたちと一緒に走り出しています。

学校運営

高井戸小学校は昨年4月に新しい校舎となりました。日光の直射を防ぐための張り出したバルコニーや、吸湿性に優れた木の壁などが、環境に配慮しつつ快適な生活を提供してくれていますが、そこで生活し、学習する中で、先生や子どもたちも環境を思う気持ちがますます強くなっているようです。各教室に据え付けられている不快指数計（温度と湿度をあわせた本当の暑さを表す計測器）を確認し、それが一定の数値を超えなければ冷房などを使うことがなく、年間の使用率も非常に低くなっています。高井戸小はこの不快指数計や、太陽光発電による発電量を示すパネルなど、学校施設の「エコ」を視覚化することで、省エネ・リサイクル活動など、学校に集う人たちの環境への配慮活動を促しているのです。



これで本当の暑さわかるんだよ！

杉並第九小学校とその周辺は、あまり自然環境に恵まれているとはいえません。それならばと考えたのが、学校を丸ごとビオトープとして機能させる「すぎくピオランド」。敷地内に点在する緑を整備して、「花の庭」「水の庭」など6つのエリアに分け、それぞれを各学年が管理をしています。各エリアはささやかながらよく手入れされ、樹木や花、カエル、チョウなどがにぎやかに出迎えてくれて、自然を肌で感じさせてくれるのです。杉九小では、まずその自然を「感じ」ることを大切に、そこから生き物を守るためにはどうしたらいいかを「考え」、子どもたち自らが「行動」します。行動することが環境問題の解決につながっていくのはもちろんですが、その根本となる自然をいつくしむ「心」を大切に、それを日常に浸透させていくのが杉九小の環境教育であり、その「心」の部分も、エコスクールに他ならないのです。



チューリップの球根の根を目で見えて感じてみよう

環境教育

平成21年度就学援助のお知らせ

経済的理由で子どもに義務教育を受けさせることが困難と認められる保護者に、学校に必要な経費の一部を援助します。

対象 杉並区内在住で、国公立の小・中学校に通う児童・生徒の保護者のうち、次のいずれかに該当する方①生活保護を受けている②平成20年度中に生活保護が停止・廃止になった③同一生計を営む世帯全員の平成20年中の総所得金額の合計が、生活保護基準額の1.2倍以下の世帯（夫婦と子ども2人の世帯の目安は400万円程度）
お申し込み 4月以降に区立小・中学校と学務課就学奨励係窓口で申請書を配布します。区立小・中学校の通学者は在学、区外の学校の通学者は同係へ申請書を提出してください。
問合せ：同係へ

「中学生レスキュー隊」のさらなる充実をめざして



中学生レスキュー隊とは・・・

救命救急技術をはじめ、災害時に役立つ知識・技能を身につける活動をとおり、中学生の防災意識と地域貢献意識の向上を図ることをねらいとして編成されたものです。現在は、15の区立中学校に設置され、230名を超える生徒が活動を行っています。

区教育委員会では、中学生レスキュー隊の今後のあり方などを考えることを目的として、「杉並区中学生レスキュー隊将来ビジョン検討懇談会」を昨年8月に設置し、延べ5回にわたる活発な議論を経て、本年1月20日に、検討の結果を取りまとめた提言が、会長から教育長へ提出されました。提言の要点は以下のとおりです。(全文は教育委員会ホームページに掲載しています)

今後は、提言の趣旨を踏まえ、校長会からの意見等も反映させつつ、構想を本年5月を目途に策定し、その後、関係諸機関への説明などを行い、活動の充実を図ってまいります。

- レスキュー隊の意義・役割が明確化されました。
- レスキュー隊の活動領域を3つに区分(教育課程内・教育課程外・学校教育活動外)し、それらに対応して活動内容が整理されました。
- レスキュー隊活動を原則「部活動」として位置づけたうえで、学校・学校支援本部・区教育委員会の役割分担等が整理されました。

レスキュー隊の意義・役割

生徒に将来の自分の生き方について考える機会を与える

生徒の「地域の一員」としての自覚を高める

生徒の社会貢献意識の高揚を図る

地域と協働する学校づくりを推進する

地域社会の活性化を図る

問合せ：教育改革推進課学校支援係

「すぎなみ教育ブックレット」を配布中！ ～ご意見・ご感想をお寄せください～



区では、区の教育の基本理念を明確にし、今後の杉並の教育を地域ぐるみで進めるための拠りどころとするため、「教育基本条例等」の検討を進めています。その取組みのひとつとして、「生きるうえで大切なこと」、「国際化」、「日本の伝統・文化」などをテーマに、4人の識者にインタビューによりご意見をお聞きし、その内容をブックレットにまとめました。現在、希望する区民の皆さんに、下記の場所で無料配布しています。

このブックレットには、「アンケートはがき」を添付しています。今後の「教育基本条例等」に関する検討の参考とさせていただきますので、是非ご意見をお寄せください。

ノーベル物理学賞受賞者

小柴 昌俊 さん 夢中になれることを自分で見つけよう

聖路加国際病院理事長

日野原重明 さん いくつ何歳になっても勇気を持って自分を表現しよう

建築家

安藤 忠雄 さん 国際人への入り口は自分で切り拓く放課後にある

編集工学研究所所長

松岡 正剛 さん 日本の伝統・文化の本質を知り、自分を再発見する

問合せ：教育改革推進課企画係

【配布場所】図書館、区民事務所(分室含む)、駅前事務所、教育改革推進課(区役所東棟6階) * 予定数がなくなり次第終了、無料

外国人のためのにほんご教室～お知り合いの外国人の方にぜひご紹介ください

杉並で暮らす外国人が日常生活をよりよく送れるように、基本的な日本語の読み書きを学び、日本に関する知識の習得のために、「外国人のためのにほんご教室」を開催しています。「にほんご学習すぎなみの会」のご協力により、4～6月、9～11月、1～3月の年3講座を開催しています。それぞれの会話レベルに応じたクラス編成で、常時一クラス7～10名の方々が楽しく学んでいます。各講座の終わりには学習発表会を行っており、受講者同士の交流・情報交換の場ともなっています。

日時：毎週火曜日と金曜日の週2回(計20回) 午後6時30分～8時30分 会場：センオン杉並 費用：月2,000円(教科書代別) その他：概ね1歳から就学前までのお子様の無料託児あり 問合せ：社会教育センター ☎3317-6621

私たちが、社長です。 — 小学生のキャリア教育

株式会社を設立して、商品を企画販売しよう。総合的な学習の時間を使い、小学生がそんな挑戦をしています。社長など役割を決め、どうすれば売れるのかを考え、商品を作り、売る。子どもたちは「仕事」を少しずつ理解していくと同時に、自分の役割への責任感、みんなとの連帯感を持つようになっていきます。また、地域の方々に協力してもらうことで、地域とのつながりも生まれます。これらの経験は中学生になったときの職場体験学習などのキャリア教育に引き継がれていきます。

さて、現在各社とも商品販売を終え、ほっと一息ついているところです。そこで、社員を率いるという重責を担った小学生社長さんたちに苦労話などを伺ってみました。(この取組みは経済産業省が実施する「起業家教育事業」の一環として行われているものです。)



社名：杉キッズ手ぬぐい会社
業種：オリジナル手ぬぐい（JAZZ、あさがお）の企画・販売

「みんなをまとめる」ことの大変さ

—杉並第一小学校

社長も副社長も、みんなをまとめるという「経験があまりなかったから大変だった」といいます。しかし、商品の販売場所を貸してくれるスーパーや商店会の方にお願いくるなど、社の代表として「大事なこと」をやっていくうちに徐々に慣れていきました。販売日（あいにくの雨でした）にも彼らはまとめ役に徹し、2時間の販売の中で400m近く離れた2箇所の販売所を何往復もして販売員に加勢しながら売れ行きを確認し、在庫数を調整することで完売を目指しました。結果として、完売には一歩及ばなかったのですが、社長は「僕たちの力を合わせてこれだけのことができた。販売もうまくいった。成功だったと思う。」と胸を張って話してくれました。手ぬぐいとパッケージのデザインや、販売活動などでがんばってくれた社員みんなをねぎらう言葉も聞かれ、「まとめる経験がなかった」3人はすでにリーダーの風格を備えています。



「社を代表して」答えてくれた社長（中）と二人の副社長。



社名：右記（8社共同事業）
業種：「井荻栄養たっぷり心弁当」及び「井荻希望のコロッケ弁当」の企画販売

お客様本位の弁当作りと販売を

—井荻小学校

「どんな弁当が食べたいですか？」市場調査に協力してくれた東京女子大学のみなさん、お弁当を作ってくれた田中屋の清水さん、お米を作ってくれた大野さん、そして井荻小5年生みんなの「心」と、お客さんにおいしく食べて欲しいという「希望」を込めた2種類のお弁当。「よりよい弁当を作りたいという気持ちが強すぎて」中身がなかなか決まらなかったようですが、社員の意見をまとめ、一つ一つ決めました。「お弁当の中身の説明が難しい」「列の整理が大変」など、対面販売での苦労話が多く聞かれましたが、毎年完売という実績のプレッシャーと不安にも負けず、笑顔とあいさつを心掛け、ついに完売。「社長になって『これは大変なことになったな』と思った」し、「大変なこといっぱいあった」けれど、完売の達成感とお客さんの笑顔が今までの苦労を全て吹き飛ばしてくれました。



社長（社長代理含む）のみなさん。左からコメッチカンパニー、米100%、ごはんですよ、新潟米カンパニー、お米の友情、米ホームコーポレーション、my米ルーキーズ、TMMRYTY(タマリティー)株式会社



社名：エコ大好き緑クラブ
業種：オリジナルエコバッグ(エコ並犬、エコガエル)の企画・製造・販売

社員への、お客さんへの思いやり

—天沼小学校

エコバッグの縫製も委託せず自社でまかなうと決めたのは、コストを下げ、利益を株主（保護者の方など）に還元したいから。「製造部の人たちは大変だったと思う」と社長・副社長が「作る（縫う）」ことの難しさを振り返り、縫い直しも厭わなかった製造部の集中力に敬意を表します。迎えた販売当日。のぼりが破れるほどの強い雨と風。おまけに販売所のまん前には「犬の落し物」が。「自分がお客さんなら嫌だと思うから」とそれを撤去した副社長の勇気に皆も士気を上げ、雨音に負けない声でオリジナルキャラクターがデザインされたエコバッグをアピールします。社名どおりのエコ活動が商店街や地域の方々の賛同を得、盛況のうちに販売終了しました。また、やってみたい？「やってみたいけど、売る日は晴れのほうがいいな」ちょっと苦笑いをしながら答えてくれました。



社員と互いに尊敬しあうことで、社をまとめた社長（中）・副社長

※社長さん、副社長さんたちへのインタビューから構成しました。この取組みの詳細は、各校のホームページでも紹介されています。ぜひご覧ください。

教育委員からの発信

5人の教育委員が意見を発信します。

大切にしなければならぬこと

教育長 井出 隆安

教室で出会った小さな、しかし、素敵な出来事を紹介します。

5年生の理科の時間のひとコマです。男の子がピンセットを器用に使うサンプルを作り、顕微鏡にセットして覗きはじ

めました。ピンントを合わせる指の動きが止まり、しばらくして顔を上げ、ちょっと前に立っていた私と目が合いました。

「見て。」

促されて覗くと、拡大された花粉が目の中一杯に飛び込んできました。

「うーん、これはすごいね。」

「でしょ。」

頭の上から、彼の声がかかります。

見終わって対面した彼の得意満面の表情がとても素敵でした。

2年生の図工の授業です。荻の茎の先を削って作ったペンで絵を描いていました。和紙の上でにじむ墨の線のなんともいえない風情に見とれていると、

「あ、まちがっちゃった。」

女の子が声を上げました。

思うように描けず、ためらっている間に、にじみが広がっていきます。墨ですから描き直しができません。傍にいた私にも困惑が伝わってきます。

その時です。近寄ってきた先生の一言。

「うーん、いいね。その、もやっとした感じ、やわらかくて、やさしそうで。」

女の子の顔から困惑が消え、固まっていた手が動き始めました。私は魔法をかけられたような、いい気分になりました。

どちらも学校ではよく見られる光景かもしれません。そうであるとしても、こうした日常の繰り返しと積み重ねの上に教育は成り立っているのだから、大切にしなければならぬことであると考えます。

さて、3月は卒業、進級・進学の日。子供たちの成長と新たな旅立ちを心から祝福いたします。

「意見を待ちしています」

「教育委員からの発信」をお読みになった方からのご意見を募集しています。「意見は郵送、または区公式ホームページ（生活ガイド）→「子供、教育」→「教育委員からの発信」にお寄せください。



★ 一人で悩んでいませんか。★

お気軽にお問合せください

社会教育センターの青少年自立支援プログラム

不登校・引きこもり等、心の問題を抱えた青少年の自己発見や自立を促すために、社会教育センターでは、年間を通じ相談・支援団体と協力して次のような事業を実施しています。(平成21年度の予定等についてはお問い合わせください)

すぎなみしゃべり場

(毎週火曜日午後6時～9時、セシオン杉並で開催中)

人間関係で悩みを抱える16歳から35歳くらいまでの方を対象に、社会参加のきっかけの場として行っているフリースペース。心の問題の専門家であるサポーターがついて、おしゃべりやゲームなどを通して人との関係づくりの第一歩をお手伝いします。毎回7～10人が参加しています。

親向け・当事者向け講座

不登校・ひきこもりという状態をどのように受け止め、本人と向き合っていくのかをご家族と一緒に考えていきます。今年度開催した講座は次のとおりです(平成20年度は終了しています)。

- 「夫婦とひきこもり～真の協力関係を目指して」(親向け)
雷門メンタルクリニック精神科医師 伊波真理雄
- 不登校・ひきこもりの事例研究及び体験談テーマ「ひきこもる子の気持ち、親の気持ちーそれぞれの自立のために」(親向け)
ノンフィクション作家 久田恵
- 「オリジナルな生き方を」(当事者向け)
雷門メンタルクリニック精神保健福祉士 田中剛

問合せ：社会教育センター ☎3317-6621

出会いの機会

～学校へ行けない人・人間関係がうまくいかない人への進路相談会

(平成20年度開催時の資料があります。お問い合わせください)

杉並区以外の方も参加可能な、不登校・学校中退のお子さんがある家族・関係者対象の相談会です。(毎年9月・3月)区内外で活動する3つのNPO法人が主体となって実施しています。お子さんの不登校・ひきこもりを体験したお母さんが体験を語ったり、高校・フリースクールなど受け入れ校の先生に相談することができます。日本全国の受け入れ校のパンフレットも入手可能。

この催しをきっかけに、不登校・ひきこもりを持つ親御さんの会「セシオネット親の会」(☎3321-6002)が発足しました。不登校・ひきこもりに悩む親御さんに経験者がアドバイスをしたり、情報交換をしています。

不登校・ひきこもり等相談・支援団体意見交換会

年2回、7月と2月に区内の支援団体同士の交流と相互学習による連携を目指して、区内NPO団体と関係各課による「不登校・ひきこもり等相談・支援団体意見交換会」を行っています。2月にはハローワーク三鷹と特定非営利法人文化学習共同ネットワークの職員による「若者への就労支援」についての講演会も行い、好評をいただきました。

教育委員会の動き

20年12月～21年2月

【教育委員会開催状況】

- ・定例会 5回
- ・臨時会 2回
- ・議案 15件
- ・報告事項 16件

【主な案件】

- ◎は審議、○は報告事項
- ◎ 杉並区立小中学校適正配置基本方針の改定について
- 平成21年度学校給食調理業務委託新規実施校について
- 「杉並区中学校対抗駅伝大会2008」の実施結果について
- 学校施設設備の安全点検の結果と対応について
- 地域運営学校(コミュニティ・スクール)の再指定の内定について
- 「杉並区中学校レスキュー隊将来ビジョン検討懇談会」の提言について
- 「(仮称)地域教育推進協議会」のモデル設置について
- 平成21年度杉並区学校教育職員採用候補者選考の結果について
- 平成21年度下井草図書館の業務委託事業者の選定結果について
- 平成20年度杉並区立図書館経営評価結果について

就学相談・特別支援教育の窓口が

4月から 済美教育センターに移ります

障害のあるお子さんや学校生活に不安のあるお子さんの就学相談・通級相談及び特別支援教育の担当窓口が、本年4月、学務課から済美教育センターに移ります。

移管後は、教育相談担当との連携を強化するなど、特別支援教育の推進体制の強化を図っていきます。

なお、予約を入れていただければ、区役所の6階学務課において、出張相談を受け付けます。

平成21年4月以降、
就学相談・通級相談は
済美教育センター 特別支援教育担当
☎3311-0021 (代表)へ

問合せ先：学務課特別支援教育担当(21年3月末まで)

▶ 高円寺若者雑学塾「食の文化祭」～食から身近なエコを感じよう!

「高円寺若者雑学塾」は、20～30代の若者が企画委員となって事業に取り組む「区民企画講座」のひとつです。今年度は、生活の基本である衣・食・住の中でも「食」に注目し、気軽に今の生活にプラスできる取り組みから、エコにつながるものを考えようとイベントを開催します。日時：平成21年3月15日(日)午前10時～午後4時半 場所：セシオン杉並(梅里1-22-32)展示室 内容：対談 薮島一匡(セカンドハーベストジャパン)×安住一成(どんまい福祉工房)食がおりなすネットワーク/トークライブ「今こそ料理力!」稲葉真希子(テレビ朝日プロデューサー)/ワークショップ・展示・軽食など ※天候・運営の事業により変更の場合あり、一部実費あり 問合せ：社会教育センター ☎3317-6621

●再生紙を使用しています